

**研究拠点形成事業**  
**平成 29 年度 実施報告書 記入上の注意**  
**(平成 26～29 年度採択課題用)**

【提出締切】平成 30 年 4 月 25 日（水）メールにて

— 提出にあたっての注意事項 —

提出締切日までにメールにて本会担当者宛にご提出ください。その後、本会担当者より拠点機関の担当者の方宛に記入内容についての照会等を随時行いますので、照会后 1 週間以内に回答・修正版等の提出をお願いいたします。

また、実施報告書の内容が確定となりましたら担当者の方にご連絡しますので、様式 7 「実施報告書の提出について」に公印を押印の上、ご提出ください。

記載内容は振興会ホームページで公開します。記載に当たっては一般国民に理解できるようわかりやすい言葉を用いるよう留意してください。特に専門用語を用いる場合には、必ず解説を付してください。

なお、A. 先端拠点形成型については、各年度の実施報告書はすべて「事後評価」の資料として評価員に提供されます。全年度の報告書を見た場合に、各年度の研究の進捗や発展がわかりやすいような記述を心がけていただきますようお願いいたします。

**A. 先端拠点形成型、B. アジア・アフリカ学術基盤形成型（※）**

（※ 該当しない交流形態を削除してください。）

**1. 拠点機関**

日本及び相手国の拠点機関名を記載してください。

交流相手国が多数の場合は、行を増やして記入してください。

日本側拠点機関：	〇〇〇〇大学
(〇〇) 拠点機関：	〇〇〇〇大学
(〇〇) 拠点機関：	〇〇〇〇大学

**2. 研究交流課題名**

「平成 29 年度実施計画書」に記載のものと同一の課題名を記載してください。

(和文)： \_\_\_\_\_

(交流分野： \_\_\_\_\_)

(英文) : \_\_\_\_\_  
(交流分野 : \_\_\_\_\_)

研究交流課題に係るホームページ : <http://> \_\_\_\_\_  
ホームページアドレスを必ず記入してください。

### 3. 採用期間

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日～平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
( \_\_\_\_\_ 年度目)

### 4. 実施体制

「平成29年度実施計画書」に記載したとおり記入してください。  
(異動等による担当者・職名変更があった場合※は、変更後の内容を記入してください)  
※この場合、取扱引き「Ⅱ-8 契約締結後の交流計画・支出計画の変更等」を参照し、  
必要な手続きを行っているかどうか必ず確認してください。

### 日本側実施組織

拠点機関 : ○○大学  
実施組織代表者 (所属部局・職・氏名) : ○○・○○○○  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) : ○○研究科・○○・○○○○  
協力機関 : ○○大学  
事務組織 : ○○○○○

### 相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名 : ○○  
拠点機関 : (英文) △△ University  
(和文) ○○ 大学  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) :  
(英文) Department of □□□, Professor , X x x x x x X x x X X X  
協力機関 : (英文) △△ University  
(和文) ○○ 大学  
経費負担区分 (A型) : パターン1

(2) 国名 : ○○  
拠点機関 : (英文) △△ University  
(和文) ○○ 大学  
コーディネーター (所属部局・職・氏名) :  
(英文) □□□ Institute, Senior Researcher , X x x x x x X X X

協力機関：(英文) △△ University

(和文) ○○大学

経費負担区分 (A型)： パターン2

## 5. 研究交流目標

### 5-1. 全期間を通じた研究交流目標

「平成29年度実施計画書」の「5. 全期間を通じた研究交流目標」で記入した内容を記載してください。

### 5-2. 平成29年度研究交流目標

「平成29年度実施計画書」の「7. 平成29年度研究交流目標」で記入した内容を記載してください。

## 6. 平成29年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

- ・「平成29年度実施計画書」の「7. 平成29年度研究交流目標」で設定した「研究協力体制の構築状況」「学術的観点」「若手研究者育成」「その他(社会貢献や独自の目的等)」のそれぞれの観点につき、目標に対する活動成果を(6-1)～(6-4)に記載してください。(ただし、文末の時制変更のみは不可とします)
- ・1年間の活動により具現化した「今後の課題・問題点」を(6-5)に記載してください。
- ・「本研究交流事業により発表された論文」の数を(6-6)に記載してください。(詳細は別紙。) この交流の成果であり、本事業名が明記されているもののみに記載してください。  
相手国参加研究者との共著論文については、その数を(6-6)に記載するとともに、別紙「論文リスト」の「相手国名」欄に該当する相手国名を記入してください。

- ・「6-1 研究協力体制の構築状況」～「6-6 本研究交流事業により発表された論文」までが、合計で4ページ以内に納まるよう、簡潔に記入してください。
- ・平成29年度に終了した内容については、必ず過去形で表記してください。

6-1 研究協力体制の構築状況

・今年度にどの相手国とどのような研究交流（研究者の派遣や受け入れ等）を実施したのか具体的に記載してください。その上で、今年度の目標に対してどの程度達成できているか、全期間を通じた目標に対してどの程度まで研究協力体制ができているかという点について、記載してください。

6-2 学術面の成果

・相手国との共同研究やセミナー等の実施状況を具体的に記載してください。その上で、今年度の目標に対してどの程度達成できているか、全期間を通じた学術的な目標に対してどの程度まで達成できているかという点について、記載してください。

6-3 若手研究者育成

・若手研究者を対象としたセミナーの開催や、相手国との派遣・受け入れ等について、活動内容を具体的に記載してください。その上で、今年度の目標に対してどの程度達成できているか、全期間を通じた若手研究者育成にかかる目標に対してどの程度まで達成できているかという点について、記載してください。

6-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

・各拠点が独自で実施した社会貢献等について記載し、得られた成果等についても記載してください。

6-5 今後の課題・問題点

・今後、全期間を通じた目標を達成するうえで想定される課題や問題点について、研究協力体制の構築、学術的観点、若手研究者育成などの観点から具体的に記載してください。

## 7. 平成29年度研究交流実績状況

・「平成29年度実施計画書」の「8. 平成29年度研究交流計画状況」で計画した「8-1 共同研究」～「8-3 研究者交流」に対応するように記載してください。（ただし、文末の時制変更のみは不可とします）

## 7-1 共同研究

整理番号	R-○	研究開始年度	平成○○年度	研究終了年度	平成○○年度
研究課題名	(和文)				
	(英文)				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文)				
	(英文)				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文)				
29年度の研究 交流活動	<p>・共同研究の実施内容（学術的な観点）について記載してください。</p> <p>・共同研究の実験や調査・打ち合わせ等にかかる研究者の派遣、受け入れなどについて具体的に記載（頻度や時期、人数等）してください。</p>				
29年度の研究 交流活動から得 られた成果	<p>・共同研究から得られた学術的な成果について記載していただき、その上で29年度の学術的な目標と比較しながら達成状況等を記載してください。</p>				

7-2 セミナー

例(相手国が中国と韓国の場合)

整理番号	S-〇
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「 」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “ ”
開催期間	平成〇〇年〇〇月〇〇日 ～ 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文)
	(英文)
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文)
	(英文)
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文)

参加者数

※例(セミナー開催地が中国で、3日のセミナーに相手国からそれぞれ15人ずつ参加、日本側参加者リストに含まれるイタリアの研究者が1名参加、開催地の中国からは「参加研究者リスト」にない研究者が15名参加した場合)

派遣先 派遣元		セミナー開催 国 (中国)	
		A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	15/45	
	B.		
中国 〈人/人日〉	A.	15/45	
	B.	15	
韓国 〈人/人日〉	A.	15/45	
	B.		
イタリア (日本側参加者) 〈人/人日〉	A.	1/3	
	B.		
合計 〈人/人日〉	A.	46/138	
	B.	15	

「参加研究者リスト」にない、一般参加予定者は、Bに記入してください。  
 ※本事業費からの負担の有無に関わらず、参加者リストに記載されている方は「A.」、記載されていない方は「B.」としてカウントしてください。

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい

場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	「平成29年度実施計画書」に記載した「セミナー開催の目的」と同一の記載としてください。	
セミナーの成果	活動実績だけではなく、実施計画書に記載した「期待される成果」についての達成状況やその他の成果などを記載してください。	
セミナーの運営組織		
開催経費分担内容と金額  「開催経費分担内容」(日本側・相手国側)と「金額」(日本側のみ)は必ず記入してください。	日本側	(*記載例) 内容 外国旅費 金額 1,500,000 円 外国旅費・謝金等に係る消費税 120,000 円 合計 1,620,000 円
	(中国)側	(*記載例) 内容 会議費 国内旅費
	(韓国)側	(*記載例) 内容 外国旅費

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

本事業で実施した研究者交流（国内交流を含む）について、記入してください。  
 （研究者交流を実施しなかった場合は、「平成29年度は実施していない」と記載し、**表を削除して**提出してください。）

日数	派遣研究者		訪問先・内容		派遣先
	氏名・所属・職名		氏名・所属・職名	内容	
日間					
日間					
日間					

・国内外交流実績について詳細を記載してください。  
 ・本事業経費を使用した交流のみ記載してください。  
 ・必要に応じて行を追加してください。  
 ・四半期交流状況報告書の「交流リスト」の一部と書式を揃えましたので、「交流リスト」の交流区分「研究者交流」に該当する交流を転記してください。ただし、「日数」については、「交流リスト」では計算式が入っており、そのままコピーができないためご注意ください。

7-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

中間評価の指摘事項等を踏まえ、交流計画等に反映させた場合、その対応について記載してください。  
 中間評価を受ける前の課題及び B.アジア・アフリカ学術基盤形成型については、「該当無し」と記入してください。



8. 平成29年度研究交流実績総人数・人日数

- 本年度に交流相手国と交流を行った研究者の延べ人数及び人日数を国別に記載してください。
- 人数と人日数は、「2/14」（＝2人を7日間ずつ、計14日間派遣（受入）した場合）のように記載してください。
- 日本側参加研究者の日本国内出張は、「8-2 国内での交流実績」欄へ記載してください。

8-1 相手国との交流実績

例（相手国が中国と韓国の場合）

派遣先 派遣元	四半期	日本		中国		韓国		合計			
		人数	人日数	人数	人日数	人数	人日数	人数	人日数		
日本	1		( )			3/9	( )		( )	3/9	( 0/0 )
	2		( )	2/6	( )		( )		( )	2/6	( 0/0 )
	3		( )	11/33	( 15/45 )		( )		( )	11/33	( 15/45 )
	4		( )	1/10	( )	2/4	( )		( )	3/14	( 0/0 )
	計		( )	14/49	( 15/45 )	5/13	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	19/62	( 15/45 )
中国	1		( )				( )		( )	0/0	( 0/0 )
	2	1/3	( )				( )		( )	1/3	( 0/0 )
	3		( )				( )		( )	0/0	( 0/0 )
	4	1/5	( )				( )		( )	1/5	( 0/0 )
	計	2/8	( 0/0 )			0/0	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	2/8	( 0/0 )
韓国	1		( )		( 2/4 )		( )		( )	0/0	( 2/4 )
	2		( )		( )		( )		( )	0/0	( 0/0 )
	3		( )		( 1/3 )		( )		( )	0/0	( 1/3 )
	4		( )		( 1/3 )		( )		( )	0/0	( 1/3 )
	計	0/0	( 0/0 )	0/0	( 4/10 )		( )	0/0	( 0/0 )	0/0	( 4/10 )
合計	1	0/0	( 0/0 )	0/0	( 2/4 )	3/9	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	3/9	( 2/4 )
	2	1/3	( 0/0 )	2/6	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	3/9	( 0/0 )
	3	0/0	( 0/0 )	11/33	( 16/48 )	0/0	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	11/33	( 16/48 )
	4	1/5	( 0/0 )	1/10	( 1/3 )	2/4	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	4/19	( 1/3 )
	計	2/8	( 0/0 )	14/49	( 19/55 )	5/13	( 0/0 )	0/0	( 0/0 )	21/70	( 19/55 )

- ・様式4「**第4**—四半期交流状況報告書」の「**1. 国別交流人数・人日数総表**」を転記してください。
- ・A.先端拠点形成型においては、相手国との経費分担が<パターン1>の場合、相手国から相手国側マッチングファンドの負担で来日した研究者の人・日数について、必ず（ / ）で記入してください。<パターン2>の場合、本事業費により相手国側研究者に日本滞在中の滞在費を支給した場合は、（ ）ではない数字で必ず記入してください。本事業費からの経費支出をしない受入があった場合は、参考情報として（ / ）で記入してください。  
パターン1、パターン2いずれの場合でも、日本からの派遣において本事業費によらない派遣があった場合は、参考情報として（ / ）で記入してください。
- ・相手国同士の交流実績（中国⇄韓国など）については、把握している場合、参考情報として記入してください。
- ・B.アジア・アフリカ学術基盤形成型においては、本事業経費からの経費支出がない交流については、参考情報として（ / ）で記入してください。

#### 8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
3/6 ( )	( )	( )	2/4 ( )	5/10 ( 0/0 )

- ・様式4「**第4**—四半期交流状況報告書」の「**2. 国内交流人数・人日数総表**」を転記してください。
- ・本事業経費によらない交流については、（ / ）で記入してください。

共同研究・セミナー・研究者交流にて第三国派遣・受入を実施した場合は、事前に当会からの承認が得られているか必ず確認してください。

単位に注意してください。

## 9. 平成29年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費		
	「委託費支出報告書」のそれぞれの「支出額」を記入してください		
	謝金		
	備品・消耗品 購入費		
	その他の経費		
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税		
	計	0	
業務委託手数料			
合 計		0	

## 10. 平成29年度相手国マッチングファンド使用額

交流実施期間中に、相手国が本事業のために使用したマッチングファンドの金額について、現地通貨での金額、及び日本円換算額を記入してください。

## 1.1. 参加研究者リスト

研究者番号は、採用期間全体を通して研究者一人につき一つの番号を使用します。

継続的に、本事業に参加した研究者（参加者要件については、取扱い手引Ⅱ、5 参加研究者の範囲等参照）は全て記入してください。

漢字表記、スペル、LAST NAME/First name の大文字・小文字の別・順序、スペース等、記入方法を統一してください。

### 参加研究者リストの記入例

研究者番号の初めの数字は国別の番号となります。

「拠・協」欄には、「拠点機関」「協力機関」「協力研究者」のいずれかを選択してください。

拠点機関が部局の場合、同じ大学に所属する者であっても部局が異なれば、「協力機関」または「協力研究者」となります。

研究者番号	氏名	カナ	所属	職名	専門	拠・協	国名	備考
1-1							①インド	②OHOOB-O
1-2								③HOO.O.削除
1-3								④HOO.O.追加 ⑤履修済

(例)

- ① 第三国の研究者の場合は、所属する研究機関の所在国名を記入してください。
- ② 今年度までに申請書を提出し、本事業への参加が承認された研究者等の承認番号を記入してください。
- ③ 参加研究者を削除した場合、行の削除はしないでください。「備考」欄に削除年月を記載し、その研究者番号は欠番としてください。
- ④ 参加者を追加した場合、「備考」欄に追加した年月を記載してください。
- ⑤ 日本側参加者リストに年度途中で追加があった場合は、研究倫理教育の履修を完了していることを確認し、その旨を「備考」欄に記載してください。

### [1.1-2～ 相手国(国名)側参加研究者リスト について]

このリストは、日本側「参加研究者リスト」以外の研究者が参加（所属）している拠点国ごとに作成してください。（研究者の国籍ではありませんので注意してください。）

「国名」「氏名」「所属」「職名」「専門」については、すべて英文表記（韓国・中国含む）としてください。

なお、「研究者番号」の初めの数字は国ごとに異なります。

参加研究者の範囲（手引Ⅱ. 5）に該当しない研究者は備考欄に承認番号が記載されていることを必ず確認してください。

別紙「論文リスト」

- ・この交流の成果であり、コーディネーターあるいは参加研究者により、当該年度に発表された**本事業名が明記されているもののみ**を記載してください。
- ・コーディネーター・参加研究者の氏名にはアンダーラインを付してください。
- ・相手国の参加研究者との共著論文、共同発表には、「相手国との共著（共同発表）」欄に○印を付し、相手国名を記入してください。
- ・査読がある場合、「査読」の有無を選択してください。
- ・相手国の研究者のみによる成果を記入する場合（この場合も、本事業名が明記されているものに限り）は、相手国欄に「○○（国名）のみ」と記入してください。
- ・必要に応じて行を追加してください。

(記載例)

(1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文又は著書				
・査読がある場合、印刷済み及び採録決定済のものに限り、査読中・投稿中のものは除く。また「査読」欄は有無を選択してください。				
整理番号	著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読	相手国との共著	相手国名
1	学振 太郎, 学振 次郎, S. Gakushin, ○○ ○○, "○○○○○○○○○○○○○○", △△△△. 103, 2302-2310, (2016.10)	有	○	中国
2	学振 花子, 学振 一郎, C. Gakushin, ○○ ○○, "○○○○○○○○○○○○○○", △△△△. 201, 1406-1421 (2016.6)	有		
3	学振 太郎, 学振 次郎, S. Gakushin, A. Gakushin, ○○ ○○, "○○○○○○○○○○○○○○", △△△△. 51, 1261-1281 (2016. 7)	有	○	中国、韓国
4	A. Gakushin, ○○ ○○, "○○○○○○○○○○○○○○", △△△△. 100, 1501-1521 (2016.5)	無		韓国のみ

(2) 国際会議における発表				
・著者名(参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、発表題名、発表した学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等を記載すること。発表者に○印を付すこと。				
・査読がある場合、有無を選択してください。				
・アブストラクト等に謝辞を記載するスペースがない等の理由で、本事業への謝辞の記載がない場合でも、本事業名と本会または本事業ロゴマークの記載があり、本事業の支援を受けた成果であることが明白である場合(事業名は必ず記載してください)は、本リストに記載してください。				
整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国との共同発表	相手国名(共同発表の場合)
1	学振 太郎, 学振 次郎, S. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", △th International Conference on △△△△, September 1-3, 2015, New York, USA. (口頭発表), (2016.9.2)		○	中国
2	学振 花子, 学振 一郎, C. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", △th International Conference on XXXXX, August 10-15, 2015 Shanghai, China. (口頭発表), (2016.8.13)	有		
3	学振 太郎, A. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", △th International Conference on XXXXX, August 10-15, 2015 Shanghai, China. (ポスター発表), (2016.8.14)	有	○	韓国

(3) 国内学会・シンポジウム等における発表				
・(2)と同様に記載すること				
整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国との共同発表	相手国名
1	学振 太郎, 学振 次郎, S. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", △△△△研究会, ○○大学. (口頭発表), (2017.3.1)		○	中国
2	学振 花子, 学振 一郎, C. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", 第○回XXXXX学会, 東京(口頭発表), (2016. 12.3)	有		
3	学振 太郎, A. Gakushin "○○○○○○○○○○○○○○", 第○回XXXXX学会, 東京(ポスター発表), (2016.12.4)	有	○	韓国